



谷 けい す け

○直接早期復旧・復興を依頼した国会議員
(肩書当時)

安倍 晋三	内閣総理大臣
寺田 稔	総務・内閣府副大臣
谷 公一	衆議院国土交通委員長
小野寺 五典	自民党安全保障調査会長
片山 さつき	地方創生担当大臣
佐藤 正久	外務副大臣
橋本 聖子	自民党参議院会長

～活動理念～

人口増加対策
子育てにやさしいまちづくり
障がい者も健常者も共に暮らせるまちづくり
若者が活躍できる空き家対策
海を生かした観光促進
将来を見据えたまちづくり



地元出身だからこそ見えるこの土地の良さ・不便さ

良さを活かしつつ、小さな声にも耳を傾けて
**この街に住んでよかったと
心から思える街づくりを目指す**



今までどんな事業に取り組んできましたか

色々ありますが主なものを

あげると、教育関係では天応小・中学校の義務教育学校化を天応小・中学校PTA等と協力して実現。落走小学校廃校に伴う通学手段としてアジサイ号利用を落走小学校PTAと協力して実現しました。



歩行者の安全確保のために広島呉道路側道蓋掛け及び横断歩道のカラー舗装化を行いました。現在通行が出来ない天崎橋利用者の利便と安全のために、現天崎橋に並行して歩道橋を新設することにいたしました。

吉浦東本町一丁目の転落防止ガードパイプの設置や、吉浦中町三丁目の段差のある坂道を二輪車が走行できるように改善しました。

安全衛生を図るために、汐見町一番2番の汚濁した水道水をきれいな水道水に改善しました。

利用者の利便を考え、漏水していた仁方まちづくりセンター茶室の水屋修繕や、呉市体育館・スポーツ会館の施設の予約を2時間単位から1時間単位に変更しました。

なお、旧日新製鉄所の撤退を契機として社会経験者の呉市職員採用枠拡大を実現しました。また、障がいの有無に関わらず誰もが安心して自分らしく暮らせるまちの実現を目指す情報コミュニケーション条例等に取り組んできました。

**豪雨災害は呉の町に深い爪痕を残しましたが
当日はどのように過ごされていましたか**

生まれた時から天応にいますが、あんな光景を見たのは初めてです。当日私は昼から広島に向い出かけていましたが、途中で小銭入れが無いことに気が付き、家に引き返しましたところその後豪雨となりました。そのまま広島に出かけていけば、数日家に帰ることが出来なかったかもしれません。

復興へ向けての取り組みについて教えてください

まず市民の安否確認を念頭にいれ、東日本大震災で被災したいわき市職員の助言を受けながら被災者に対応しました。被災日の午後から支援者と食材を持ち寄り、天応まちづくりセンター調理室に炊き出し所を開設しました。

立入が禁止されていたボランティアによる家屋内・床下土砂撤去を可能とし、迅速な復旧作業の促進を図ることが出来ました。泥水除去作業を円滑に行うため台車とバケツの手配やボランティアの安全と災害復旧促進のために長靴とスコップの手配をしました。

多くの支援物資はありましたが、避難所で不足していた下着の手配も行いました。

JRが不通となっているため道路が大渋滞し広島に行くことが大変困難な状態となっていたので、呉ポートピア桟橋から宇品への臨時航路の開設に取り組み、合わせて、災害復旧促進のため

現在どんな事業に取り組んでいますか

天崎橋の現在の場所への架け替えに取り組んでいます

駅のバリアフリー化に向け、呉ポートピア駅バリアフリー化要望書を関係自治会長と市長に提出しました。同じく吉浦駅エレベーター設置に伴い自由通路設置の要望書を吉浦自治会連合会役員と市長に提出しましたので実現にむけ取り組んでいます。また、天応駅につきましてもエレベーターを使用しないバリアフリー化に取り組んでいます。

雨降り対策として、汐見町バス停の屋根設置の実現化や、天応・焼山地区皆さんの念願である天応焼山線の全線拡幅と天応滝見橋の拡幅に取り組んでいます。また、健康と安全のため呉スポーツ会館アリーナの冷房装置の設置に取り組んでいます。

その他、子育て環境・障がい者・まちづくり・農水産業・観光等の改善対策や、道路舗装・公園遊具改修・横断歩道カラー化等

**未来を担う
若者たちが
思い描く
街づくりの
実現に向けて
力を尽くして
まいります。**



ボランティアの船賃無料化に取り組みました。

断水で大変困りましたが、吉浦漁協の支援を頂き給水車の手配や、天応大西地区の水道の一部早期給水を地元住民と協力して図ることが出来ました。

学校体育館避難所に暑さ対策として冷房設備の設置や、復旧が間に合わず個人が業者に依頼した土砂撤去経費等の公費負担に取り組みました。

バス運休をしらせるために、防災無線によるバス運休案内を行うように手配しました。

その他、天応・落走・吉浦の被災地を発災日から9月末まで毎日巡り、土砂撤去や日々変わる救済内容の伝達など、被災者の相談や問題解決等にあたりました。

**災害から4年
未だ完全に復興して
いない場所がたくさん
ありますので
復興を進めることで
未来に向かって
以前より住みよい
まちになるよう
早期復旧に取り組んで
参ります。**

